

参議院選挙2025

開票速報 最新ニュース Think! 各党の公約



崩れる既成政党、比例票で読む栄枯盛衰 組織票細る公明・共産

[参議院選挙2025](#) [+ フォローする](#)

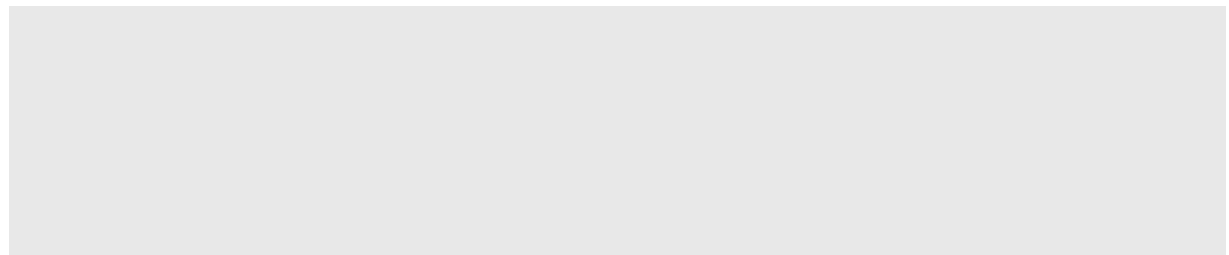
2025年7月23日 5:00 (2025年7月23日 10:29更新) [会員限定記事]



Think!

[境家史郎さん](#)他1名の投稿

20日の参院選は既成政党離れと新興政党の台頭が鮮明となった。中長期で比例代表の動向をみると、公明党や共産党といった組織票に頼る政党が減らす傾向にある。新たな支持者を引き寄せるための改革がなければ衰退しかねない。



2001年、13年、25年参院選の比例代表で 得票数が多かった政党・政治団体

	2001年	得票数		13年		25年	得票数	
1位	自民党	2111万	→	自民党	1846万	→	自民党	1280万
2	民主党	899万	↘	公明党	756万	↘	国民民主党	762万
3	公明党	818万	↘	民主党	713万	↘	参政党	742万
4	共産党	432万	↘	日本維新の会	635万	↘	立憲民主党	739万
5	自由党	422万	↘	共産党	515万	↘	公明党	521万
6	社民党	362万	↘	みんなの党	475万	↘	日本維新の会	437万
7	保守党	127万	↘	社民党	125万	↘	れいわ新選組	387万
8	自由連合	78万	↘	生活の党	94万	↘	日本保守党	298万
9	二院クラブ	66万	↘	新党大地	52万	↘	共産党	286万
10	自由と希望	47万	↘	緑の党	45万	↘	チームみらい	151万

参院比例代表は2001年に政党名と候補の個人名を合算する非拘束名簿式に移行した。25年までの9回の参院選の比例票を分析すると、組織型政党の苦戦が浮かび上がる。

公明は20日の参院選で現行制度下で初めて600万票を割った。前回22年より100万票近く少ない520万票まで減った。01、04年は800万票台、07～16年は700万票台、19、22年は600万票台と徐々に減らしてきた。

共産は初めて200万票台に落ち込んだ。ピークだった16年の600万票の半分にも満たない。

公明は宗教団体の創価学会が支持母体、共産は支部・地区・都道府県・中央といった階層ごとの党組織を持つ。ともに支持者の高齢化が集票力の低下に影響している。

法政大の河野有理教授は「これまで日本政治を支えてきた中間団体が弱ってきているのではないか」と話す。

共産の田村智子委員長は21日の記者会見で「私たちの党そのものの組織力が後退していることは全国の党員が痛感している」と認めた。



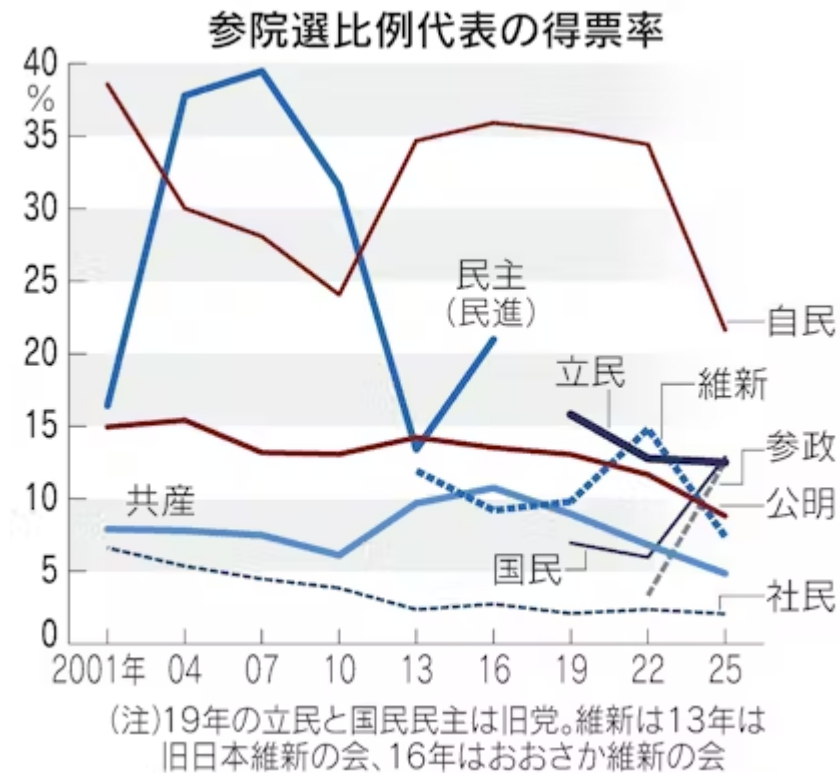
公明党の斉藤鉄夫代表[㊟]と共産党の田村智子委員長

公明は特にこの5年間ほどで得票数の減少幅が大きくなっている。20年からの新型コロナウイルス感染拡大で対面が難しくなり、政治活動を引退した高齢の支持者が多いという。

24年の衆院選で議席を減らし危機感が募った。その後に無党派層を意識し、YouTubeチャンネルで政策に関する動画を投稿する取り組みを強化した。

ところが党幹部は「発信の回数は増えたが、コンテンツ力がなく有権者に刺さらなかった」と話す。新味がある政策を打ち出せなければ発信だけ工夫しても限界がある。

別の公明幹部は「いまや創価学会員といえども現役世代向けの政策など他党の公約が魅力的に映れば、そちらに投票する」と明かす。



今回の参院選比例はもうひとつ特徴がある。自民と立憲民主党の合計得票が全体の4割を下回った。与野党第1党の割合がここまで落ちるのは01年以降で初めてだ。

04年や07年は当時の自民、民主両党で比例票の7割近くを占めた。その後もおよそ5割前後が続いていた。

1996年に衆院で小選挙区制度を導入し、二大政党制的な体制をめざす動きがあった。自民が減れば民主が増え、民主が減退すれば自民が盛り返す関係があった。お互いの不満を取り込んできたためだ。

自民は今回1280万票ほどで540万票程度減った。投票率も上がり、全体の得票総数は600万票ほど増えた。この計1140万票はこれまでなら多くが野党第1党に流れるはずだった。



当選者の名前を張り出す立憲民主党の野田代表㊦=20日、東京・永田町

しかし立民は740万票で60万票程度しか増えていない。獲得したのは7議席と前回と同じだった。比例の得票数は22年に野党第2党、今回が第3党だった。

一定の支持層はあるものの、広がりをおく。共同通信の出口調査によると無党派層のうち今回比例で立民に投じたのは13.1%だった。19年は20.6%、22年は14.8%と徐々

に下がっている。

振るわない既成政党とは対照的に新興政党が伸ばしている。

政党要件のひとつ「得票率2%」を比例で獲得した政党数は増加傾向にある。得票で換算するとおおよそ100万票だ。01～19年は5～8党だった。22年は参政党やNHK党も含め10党、今回は日本保守党やチームみらいが加わり11党に上った。

新たに政党の仲間入りをしているのは既存政党が分裂して生まれた新党ではない。国会議員がいない政治団体が国政選挙に挑んで得票率2%に達するケースが相次ぐ。



参政党の神谷代表[㊟]と国民民主党の玉木雄一郎代表

組織を持たない政党でもSNSの普及で発信が容易になった。街頭演説などの様子を編集した「ショート動画」で伝える。チームみらいは人工知能（AI）を使い、支持者が求める政策を公約に取り入れた。

参政党のある候補者は「これまで政治に関心を持っていない人が支持してくれている」と明かした。

新興政党の勢いはSNSの影響だけでは説明できない。参政の神谷宗幣代表は「支持が拡大する過程で一番強いのは口コミだ」と強調する。

参政は地方議会で議員を当選させ、各地で政策を地道に訴えている。これまで公明や共産が取り組んできた手法だ。

今回躍進した国民民主党は立民と同じ旧民主党を源流に持つ政党だ。どの党も取り込めていなかったサラリーマン層を意識し「手取りを増やす」を主張し世論がなびいた。SNSの活用とともに新たな政策の切り口も欠かせない。

【関連記事】

- ・ [公明党、参院選選挙区で18年ぶり落選 斉藤代表「自公連立が基本」](#)
- ・ [参院選で維新が目標確保、共産は議席減 新興政党に苦戦](#)
- ・ [日本の新たなポピュリズム 新自由主義から右派にシフト](#)

参議院選挙2025

選挙区・候補者の情報はこちら



β版 Ask! NIKKEI

この機能はベータ版として提供しています

- ・ [非拘束名簿式比例代表とは?](#)

- [既成政党の支持率低下の背景は?](#)
- [創価学会の組織と役割は?](#)
- [新興政党の政策戦略の特徴は?](#)

質問

※個人情報を入力できません。日経電子版に掲載されていない内容からは回答できません。

Think!

多様な観点からニュースを考える >

※掲載される投稿は投稿者個人の見解であり、日本経済新聞社の見解ではありません。



境家史郎

東京大学大学院法学政治学研究科...



ひとこと解説 公明党と共産党はいずれも1970年前後に伸びた政党で、それから半世紀以上経った今日、固定的支持層の高齢化、自然減は深刻である。そして両党とも新規の支持層を得るのが非常に難しい点でも共通している。公明党は創価学会基盤の党というイメージが強すぎるし（その基盤が同党の強みでもあるが）、共産党は閉鎖的なイメージとライバル党派（れいわ新選組、立憲民主左派）の存在のために、特に若年層にとって、わざわざ選んで投票しようとはなりにくい。

とはいえ、両党は今なお数百万票の単位で集票できる稀有な組織を持ち、まだまだ日本政治における重要なアクターではあり続けるだろう。

2025年7月23日 10:18



森幹晴

弁護士・東京国際法律事務所 代...

